



4市リサイクル施設 かざぐるま

4市リサイクル施設組合議会

2022年度決算 中林議員が反対討論

今後の施設のあり方の見直しを

4市リサイクル施設（かざぐるま）の2022年度決算に対する中林議員の反対討論の主旨等を紹介します。

◆ ◆ ◆
今後の施設の在り方について

本組合施設には2022年度の借入返済をもつて残高はなく、4市の共同財産として、土地・建物・機械等で、

約9億円ほどの資産があるということです。

また、事業に必要な設備・機器については、2030年度以降は、新たな更新が必要ということです。

寝屋川市では「市民アンケート調査」の結果、「材料リサイクルに適するものは、材料リサイクルし、材料リサイクルに適さない廃

プラはサーマルリサイクルすべきであり、廃プラを含むごみ処理の在り方を見直す」との考え方で可燃ごみの減量に取り組んでいます。

遅くとも、2030年度までの間に、本組合施設の在り方について、このまま4市の共同事業として運営するのかどうかについても構成4市で議論し、見

直しすることを求めます。

施設の情報発信について

プラスチック容器包装廃棄物の発生抑制、リターナブル容器の推進など「循環型社会形成推進基本法」の趣旨を、最優先課題として、本施設から積極的に発信するべきです。

◆ ◆ ◆
そもそも問題について

反対の第一は、本施設が、道路向かいの民間廃プラ処理施設とともに、周辺住民の反対の声を聞かずに建設、スタートしたことにあります。

本組合施設の派遣職員6人中3人が、寝屋川からであることの

新たな健康被害はきいていない

根拠について、明確な答弁がありません。また、運輸管理業務委託は、総合評価方式の地域貢献度を加え、設立当初から、ずっと同じ事業者への委託になっていることもそもそもの問題です。

2つの施設の稼働と同時期に、健康被害の訴えがありました。民間処理施設が、2021年3月に再商品化事業を終了、同年7月に堺市に移転したこともあり、現在、新たな健康被害の訴えはきいていません。

ただ、2つの廃プラ処理施設の稼働が、化学物質過敏症などの引き金となった住民が、今も健康被害に苦しんでいることは申し上げておきます。

ふたとラベル外しに1日4人が手作業

手選別作業について

ふたとラベルが外れていないペットボトルが、全体の4割を超えており、それを外すために1日2人、4人も職員が手作業をしています。

もともと、寝屋川市では、ペットボトルは、市民段階で分別し収集していましたが、そのところが、本施設を稼働するために、その

他プラと同じ袋で収集することになった経過があります。せつかく、市民が分別していたものを行政の仕事に戻したものです。

分別しやすいペットボトル類とトレイ類などは、市民がごみを出す段階で分別収集し、手選別作業の縮小をはかるべきと考えます。

プラスチック容器の発生抑制について

容器包装リサイクル法は、製造者等は、再商品化費用のみの負担となっているため、発生抑制に、積極的に取り組むインセンティブが働きません。ペットボトルをはじめ、プラスチック製容器については、拡大生産者責任にゆだねる方策を、4市施設組合でも推進すべきと考えます。

寝屋川民報

発行
日本共産党
寝屋川市委員会
072-823-0058
FAX: 823-4336
No. 3464

寝屋川市会議員

中林かずえ
宝町4-33
090-3944-8385

寝屋川市会議員

松尾信次
下木田町12-6
090-3056-9924

寝屋川市会議員

西田まさみ
石津中町30-3
090-9713-3588

前寝屋川市会議員

太田とおる
高柳2-49-2
080-3818-9722



9月議会で、中林かずえ議員は、社会福祉協議会の貸付金の問題をとりあげました。

市民が、社会福祉協議会に入院医療費の貸付の申請するための添付書類として、病院の請求書か領収書が必要とのことでした。

「医療費がなくて貸付申請している市民に、入院後に発行の請求書

や支払い時の領収書を求めるのは、納得できない」と中林議員は本会議で主張しました。

市担当課の答弁は「大阪府社協が認めないと、寝屋川市社協だけ特別にはできない」との答弁でしたので、議会終了後、お忙しいだろうとは思いますが、石川たえ日本共産党府議に相談しました。

すると、その日のうちに大阪府社協を所管する「府福祉部地域福祉課」にヒアリングしてくれて、結果「請求書や領収書でなくても、

病院の診断書等でも可能」との返事をいただきました。

その翌日が、ちょうど、社会福祉協議会を所管する市議会の決算審査委員会でしたので、石川府議からの返事を紹介し、市の見解を見直させることができました。

石川議員がすぐにヒアリングしてくれたので次の議会まで待たずに解決しました。かけがえのない議席です。

医療費貸付が診断書等で可能に 石川たえ府議に相談



市民の役に立つ市役所に 中林議員が求める 決算審査総括

2022年度の決算審査の総括質問で中林議員が求めた4件のうち2件を紹介します。

◆ ◆
物価高騰で市民生活の困難が広がっています。

市民が各種減免制度などを活用する場合に、税申告による所得によって、利用できたり対象外であったりすることが多々あります。

例えば、保育料、国保料、介護保険料、後期高齢者医療保険料、就学援助制度、医療費の限度額、入院給食費、法定減免制度の活用、非課税世帯が利用できる高齢者の施策などなどについては、配偶者

控除漏れ、扶養家族控除漏れ、寡婦控除漏れ、障がい者控除漏れなどによって、活用できずに不利益となる場合があります。

そこで、①申告の基

本についての市民周知。②各窓口で、市民の困難が、控除漏れなどに原因する場合は不利益を解消するための積極的な対応など「知っていて当たりまえ、知らない市民は不利益も、やむおえない」ではなく、市民生活を守るために市民の負担軽減にも「役に立つ市役所」になることを求めました。

情報が届きにくい市民にこそ対策を

また、中林議員は、高齢化に伴う行政書類等について以下求めました。

●1、市民宛の書類は、行政用語はわかりやすく説明すること、文字を大きく、太くすること。

やすくすること。

●3、後期高齢者医療保険のしおりは、わかりやすい大きさに改善すること。

また、デジタル化をすすめるにあたっては、常にホームページやS

NSを使えない市民がいることを想定すること、情報が届きにくい市民への対応策を考えることを求めました。



議員日誌



中林かずえ

松屋町でモーニングカフェ「松屋カフェ」が始まりました。

毎週木曜日午前9時半からですが、月2回ほど「中林かずえの市政報告と暮らし何でも相談会」をさせていただきました。と考えています。

オープンした16日に参加させていただいたなら、私以外に12人も来ていただき用意した食材が足りなかったようでした。

実は、10日ほど前「寝屋川市の制度で教えてほしいことがあります」と電話いただきました。お約束したのですが、会えなくて、気になっていた女性Aさんに、前日に連絡がついて、この力

ありがとうございます。一緒に朝食しながら、何やかんやと話しをして優しいつながりが増えることを願って頑張ります。